大地震　そのときあなたは？

知っておこうわが家の集合場所

平成7年1月17日の阪神・淡路大震災から6年半が経過しました。その経験や教訓を生かし、市では地域防災計画を見直すなど、さまざまな対策を進めています。被害を最小限に食い止め、また、自分や家族・財産を守るためには何が必要か、9月1日の防災の日を前にもう一度考えてみませんか。

突然大地震が発生して市内で大きな被害が出たとき、あなたはどう行動しますか？

家の中ならすぐ火を消して丈夫なテーブルの下にもぐる、屋外ではブロック塀や自動販売機などからすぐに離れる…こうしてとりあえず自分の身の安全を確保することが先決です。そして揺れがおさまった後、家族の無事について電話で、あるいは外出先から帰宅して、確認することになります。

しかし、大地震の後は電話がかけにくく、また、交通の寸断により帰宅できなかったり、最悪の場合は自宅が倒壊・焼失したりすることもあります。家族同士で連絡がつかないときや、自宅に戻ることができないときは、家族全員が最寄りの避難場所に集合することが最も確実な安否確認の方法です。

公園・学校など延べ201カ所

家族が速やかに避難場所へ集合するためには、どこへ避難するかをあらかじめ知っておく必要があります。

市内には、広域避難場所・避難所・一時避難所の3種類の避難場所があります（一部で重複している場合があります）。地震発生時の居場所や自宅が安全かどうかなどによって、避難場所は異なります。避難場所を選択する際は、**図1**を参照してください。

広域避難場所と避難所の名称・位置については、**図2**を参照してください。休日などを利用して、家族みんなで場所や経路の下見をしておくとよいでしょう。

◆広域避難場所

火災や余震が激しく地域全体の危険がおさまらないときに避難する場所で、十分な広さを持つ学校や公園など18カ所があります。

◆避難所

家屋倒壊などで自宅に戻れない場合に当面の間生活をするほか、救援物資や情報の提供を行う場所で、学校やコミセンなど42カ所があります。

◆一時避難場所

自宅に戻れないときや、火災や余震のため自宅が危険なときに一時的に集合する場所で、身近な公園・児童遊園、広場・空き地など141カ所があります。

防災訓練での避難風景（去年9月）

気になる市の災害対策は？

自分や家族がどこへ、何を持って避難すればよいかは分かっても、あらかじめ個人が準備できることには限りがあります。市が行う災害対策を知ることで、万一の際に円滑に行動することができます。

市では、市内に地震による大規模な災害が発生したとき、または発生のおそれがあるときには、市役所内に市長を本部長とする災害対策本部を設置して被害の拡大を防ぎ、必要な応急対策を実施します。

避難する方々の誘導や避難所の開設、救援物資の提供などは、市職員が関係機関と協力して行います。具体的な対策としては次のものがあります。

◆高齢者の方々などの避難

阪神・淡路大震災では、ストレスの多い避難所での生活が困難な高齢者や障害のある方々が多く、改善が望まれていました。

市ではこの経験を生かし、42カ所の避難所のうち総合福祉会館・わかば会館の2カ所を福祉避難所に指定しました。福祉避難所へは、ヘルパー・カウンセラーや福祉ボランティアの、専従または重点的な配属などを検討しています。

◆情報の伝達

災害の状況、避難情報、交通機関やライフラインの復旧情報、救急物資の提供などの情報は、防災行政無線・市ホームページ・広報車両の巡回などでお知らせします。

また、避難所での仮設公衆電話や市民のみなさん用の伝言板の設置なども、状況により対応していくことを検討中です。

◆医療救護活動

災害時の応急的な医療救護活動は、市医師会・市歯科医師会・市薬剤師会の協力を得て、市内全コミセン（10カ所）に医療救護所を設置して行います。

医療救護所では、傷病者への応急処置・医療機関への移送とその優先順位の決定などを行います。

◆防災備蓄倉庫

防災資機材を収納した防災備蓄倉庫は、市役所や消防署、学校やコミセンなど、現在市内に43カ所あります。

ここには食糧のほか、避難所で使うための毛布約6000枚、ゴザ約1200枚、防水シート約1700枚、仮設トイレ（大用）約120基、同（小用）約50基、発電機約40台、ガスこんろ約350台など、生活用の備品が収納されています。

これらの点検は市職員が定期的に行っており、動作が不良であったり古くなったりしたものは交換をしています。

◆飲料水

災害時の応急飲料水には、飲料水用貯水槽19基、県災害用指定配水池2カ所（上今泉・杉久保）などの水を使用します。

現在の蓄水量は1万1490立方㍍で、市民のみなさんが1人1日3㍑使うとして、1カ月程度の備蓄があります（期間は復旧状況などにより変わります）。

給水設備の損壊などによって飲料水が得られない方々へは、給水設備を持つ車両を使って提供します。給水の時間・場所などは、事前にみなさんへお知らせします。

◆食糧

避難所での生活を余儀なくされている方々や、自宅の損傷で炊事ができない方々へは、応急食糧として乾パンなどの備蓄食糧・炊き出し飯・パンなどを提供します。

応急食糧は、原則として避難所で支給します。自宅で避難生活をしている方などは、最寄りの避難所まで受け取りに来ていただくことになります。

現在備蓄食糧は、乾パン約12万7000食・サバイバルフーズ約9万食など、全部で約26万6000食分が用意されています。

また、炊き出しは自主防災組織やボランティアなどの協力を得ながら、給食センターや避難所で行う予定です。

問　市民活動課（内266）。

市職員の点検で備蓄品は万全に

備蓄倉庫は43カ所・全コミセンで医療救護

― 福祉避難所も2カ所開設 ―

図1　避難するところは？

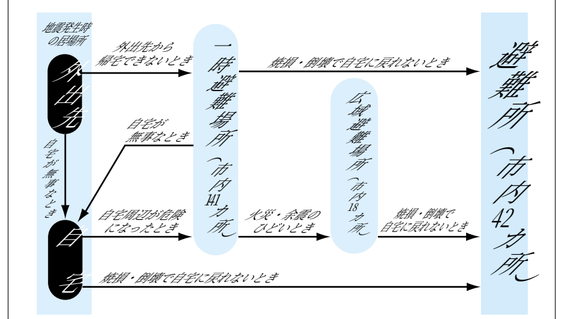


表1　非常時持出品リスト

※□覧でチェックし、リュックサックなどの非常持出袋に入れておきましょう。**太字のものは、各家庭で3日分を備蓄するようお願いします。**

食糧
- □ **水（ミネラルウォーターや缶詰）**
- □ **乾パンなど火を通さずにそのまま食べられる食品**
- □ **パック入りカレー・缶詰などそのまま加熱して食べられる食品**
- □ **粉ミルクやほ乳びん（乳児がいる場合）**
- □ 水筒・鍋

救急・安全
- □ 常備薬や救急薬品
- □ 常用薬（持病などがある場合）
- □ 予備の眼鏡、入れ歯、補聴器など（常用している場合）
- □ 防災ずきんや帽子（頭を守るもの）
- □ 運動靴（サンダル、スリッパなどは不可）

貴重品
- □ 現金（小銭も用意）
- □ 預金通帳
- □ 運転免許証など身分を証明できるもの

衣類
- □ 下着
- □ 雨具
- □ タオル
- □ 寝袋

日用品
- □ 携帯ラジオ（予備の電池も）
- □ 懐中電灯（予備の電池も）
- □ 軍手
- □ マッチやライター
- □ 使い捨てカイロ（冬季）
- □ **紙おむつや生理用品**
- □ ティシュペーパー（湿式のものも）
- □ 筆記用具
- □ 厚手のビニール袋

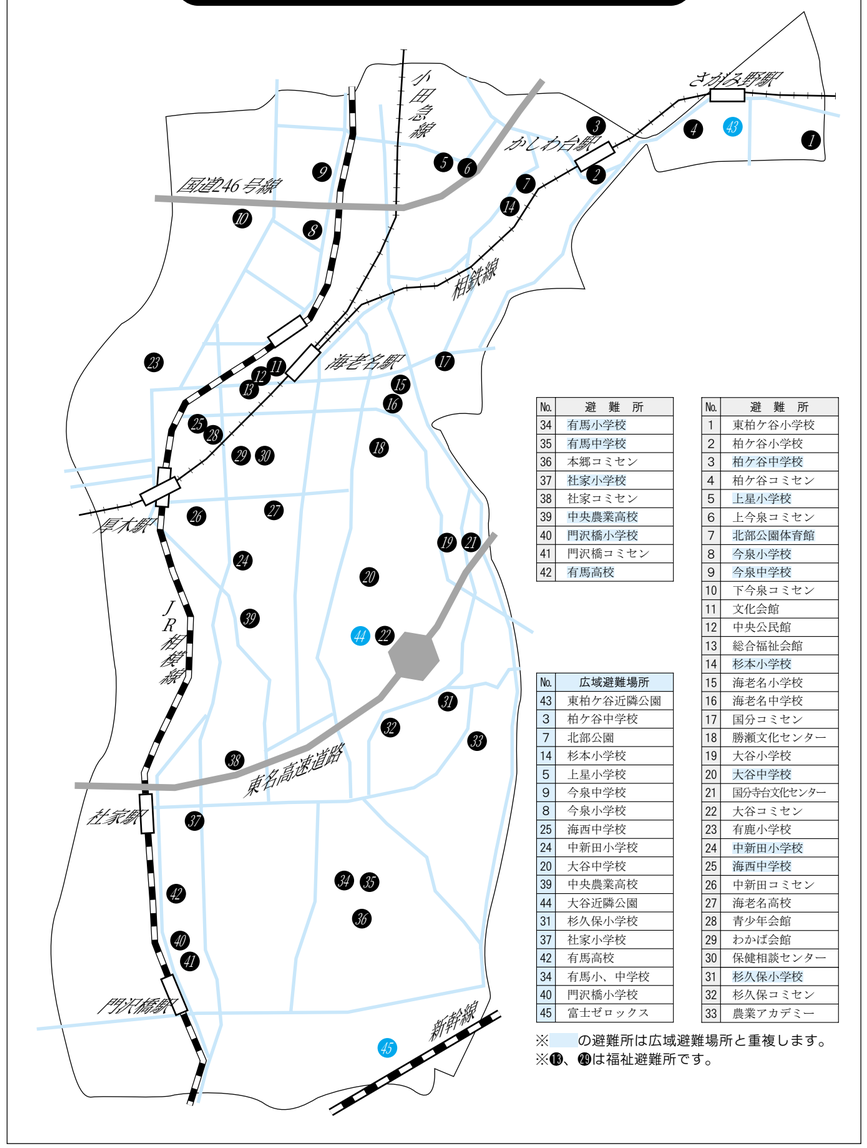
避難するときは忘れずにガスの元栓を閉め、電気のブレーカーを落として戸締まりをしてください。外出している家族のために、行き先を書いたメモを残しておきましょう。

避難は必ず徒歩で行ってください。自動車での避難は交通混乱の原因となるので、絶対にやめましょう。

火元を点検　施錠し避難

飲料水・現金・持病の薬・赤ちゃんのミルク…これらはすべて、避難生活で必要なものです。**表1**の「非常時持出品リスト」を参照しながら、いざというときにわが家から持ち出す物品をチェックしておいてください。

図2　避難所・広域避難場所位置図



No.	避難所
34	有馬小学校
35	有馬中学校
36	本郷コミセン
37	社家小学校
38	社家コミセン
39	中央農業高校
40	門沢橋小学校
41	門沢橋コミセン
42	有馬高校

No.	広域避難場所
43	東柏ケ谷近隣公園
3	柏ケ谷中学校
7	北部公園
14	杉本小学校
5	上星小学校
9	今泉中学校
8	今泉小学校
25	海西中学校
24	中新田小学校
20	大谷中学校
39	中央農業高校
44	大谷近隣公園
31	杉久保小学校
37	社家小学校
42	有馬高校
34	有馬小、中学校
40	門沢橋小学校
45	富士ゼロックス

No.	避難所
1	東柏ケ谷小学校
2	柏ケ谷小学校
3	柏ケ谷中学校
4	柏ケ谷コミセン
5	上星小学校
6	上今泉コミセン
7	北部公園体育館
8	今泉小学校
9	今泉中学校
10	下今泉コミセン
11	文化会館
12	中央公民館
13	総合福祉会館
14	杉本小学校
15	海老名小学校
16	海老名中学校
17	国分コミセン
18	勝瀬文化センター
19	大谷小学校
20	大谷中学校
21	国分寺台文化センター
22	大谷コミセン
23	有鹿小学校
24	中新田小学校
25	海西中学校
26	中新田コミセン
27	海老名高校
28	青少年会館
29	わかば会館
30	保健相談センター
31	杉久保小学校
32	杉久保コミセン
33	農業アカデミー

※　　の避難所は広域避難場所と重複します。
※⑬、㉙は福祉避難所です。

震災の教訓

救援ボランティアに聞く

阪神・淡路大震災のボランティア活動経験者・松井俊治さん（海老名市役所勤務）に、地震への備えや心構えについて聞きました。

―**活動の内容は。**

医療チームが巡回する日時や場所の調整が活動の中心で、医療現場を実際に見ることもできました。

―**どのようなけがをされた方が多いのでしょうか。**

特に家の中でけがをした人が多い。激しい揺れで「たんすやテレビがまるで飛んできたようだった」と、けがをしたときの様子を話していました。家具はしっかり固定しておくことが大事だと思いました。

◆水の備蓄は各家庭でも

―**とりあえず持ち出したいものの代表は。**

阪神・淡路大震災では、震災後も営業を続けたスーパーが多数ありました。当座の生活費として小銭を含めた現金は必要です。貴重品も、家に残さず避難してください。

また、運転免許証など身分を証明するものがあると便利です。

―**備蓄しておくと役立つものや、備蓄での心構えは。**

一番備蓄したいのは水です。ポットややかんは常に水を一杯にしておく。ふろはいつでも満水にしておくと、洗面・トイレの水に利用できます。また、持ち運び用にポリタンクがあると便利です。

粉ミルクや紙おむつ、生理用品は救援物資での供給が少ないので、普段から1袋余分に買い置きしておくことを勧めます。

―**家族であらかじめ準備しておきたいことは。**

就寝中は、運動靴や眼鏡を手近に置き、避難時に備えてください。ホイッスルは、崩壊したがれきの間から助けを求めるときに役立ちます。また、氏名・住所・連絡先・血液型・持病・常用薬の名称を書いたメモを常に携行すれば、治療を受けるときなどに役立ちます。

◆支え合う心が復興の力

―**避難生活で困っていたことは。**

最も困ったのはトイレの不足でした。それでも、避難所では高齢者の方々のトイレができるだけ優先になるようにみんなが気を配るなど、お互いに助け合っていました。

―**最後に、震災からの教訓を。**

例えば「ショッピングカートがあると救援物資の運搬に便利」と、防災の手引書にあります。でも本当は、重くて困っている人の荷物はみんなで協力して運べばいいのです。日ごろから隣近所との交流を深め、困ったときにはお互いに支え合う気持ちを忘れないで欲しい。その心が、復興への大きな力となるはずです。

阪神・淡路大震災の惨状